

# 名寄市における 物流・防災拠点化構想



# 1 北海道における物流課題

## 名寄市の中継輸送・共同輸送における位置

名寄市は稚内と札幌・苫小牧のほぼ中間点に位置し、北海道第2の都市である旭川市の補完的役割を担うことが可能

### 現在

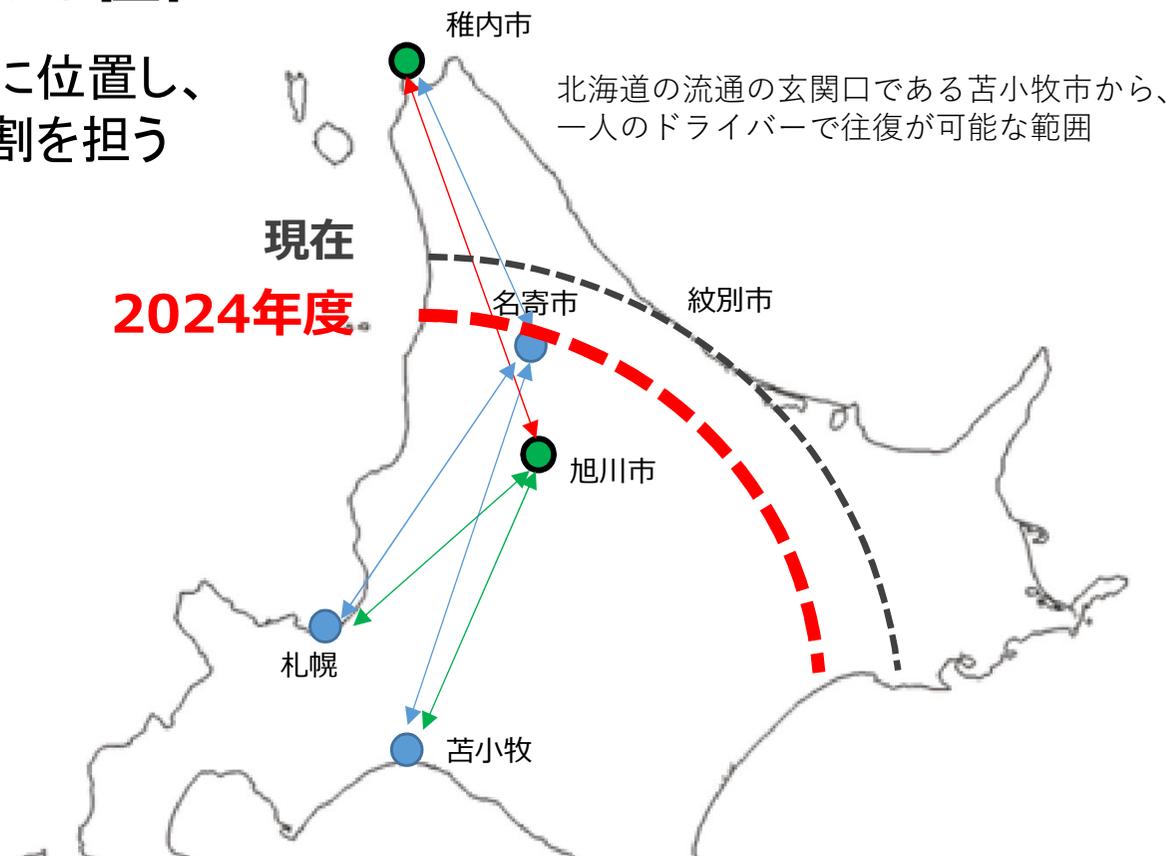
1か月の拘束時間 = 293 h (休憩1h含む)  
1か月の労働日数22日 (仮)  
293 h - 22 h (1h休憩×22日)  
271 h ÷ 22日 = **12.3h/日**  
荷役時間 = 2.8h平均  
運転時間 = 9.5 h

### 2024年度

年間時間外労働上限 = 960h ①80h/月  
1か月30日 (仮) = 4.3週  
法定労働時間 = 40h/週 ②172時間 (月間)

① + ② = 252h  
252h ÷ 30日 = **11.4h/日**

荷役時間 = 2.8h平均  
運転時間 = **8.6 h**



旭川-稚内間 : 往復約500km 運転時間 約 9.0時間  
旭川-苫小牧間 : 往復約400km 運転時間 約 5.5時間  
旭川-札幌間 : 往復約300km 運転時間 約 4.5時間

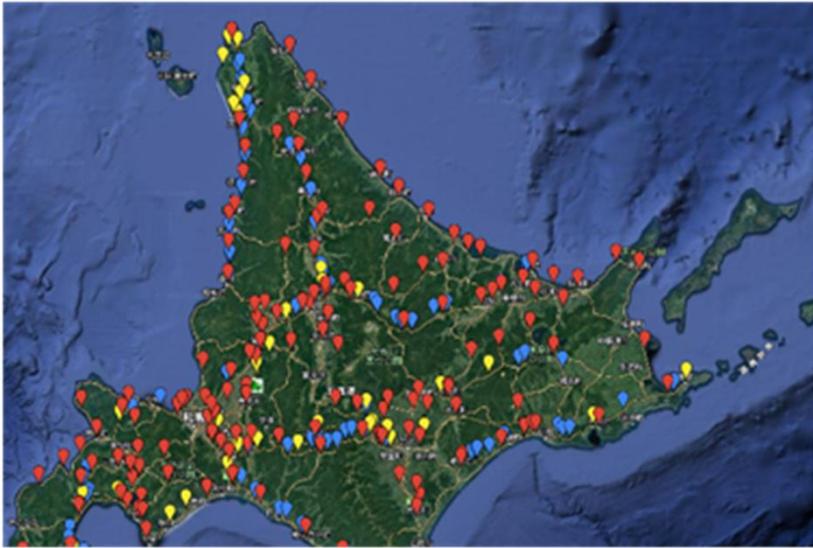
名寄-稚内間 : 往復約340km 運転時間 約 6.0時間  
名寄-札幌間 : 往復約440km 運転時間 約 7.0時間  
名寄-苫小牧間 : 往復約520km 運転時間 約 7.5時間

## 2 名寄インターチェンジ拠点整備構想 (名寄商工会議所 R5.2)

北海道の物流における課題と現状を踏まえ、

令和5年2月 名寄商工会議所が「名寄インターチェンジ拠点整備構想」を発表

《現在のトラックドライバーの立ち寄り休憩場所》



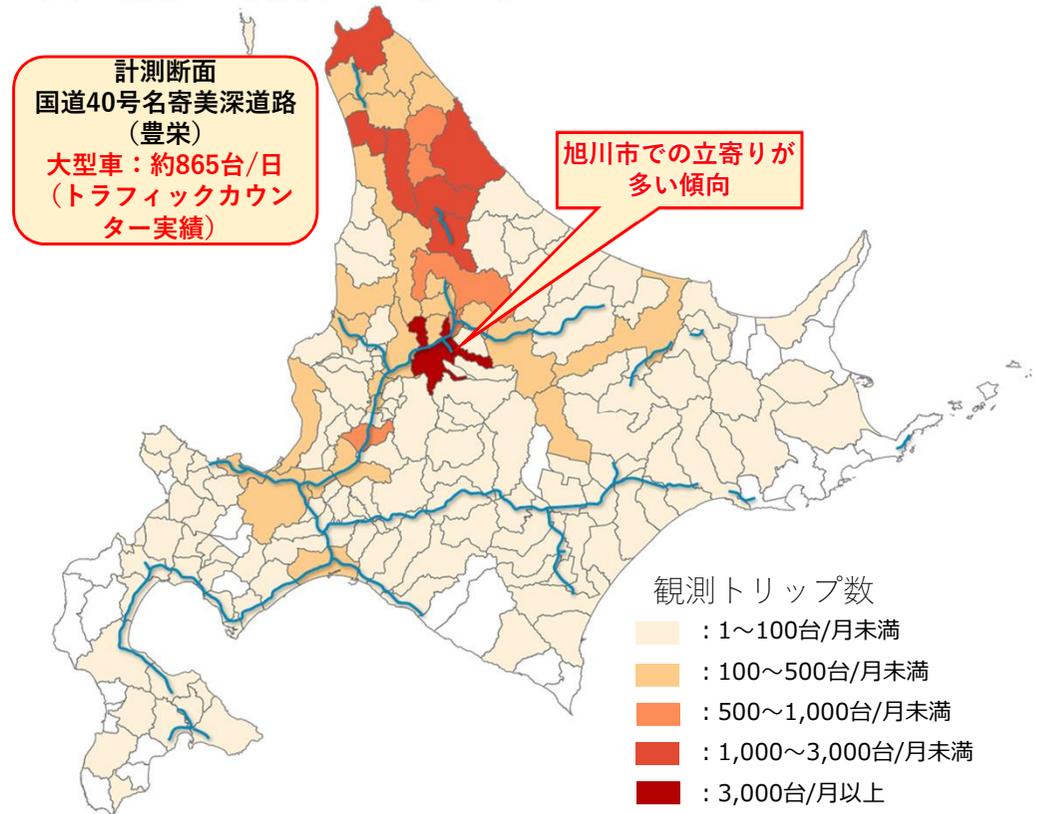
出典：北海道トラック協会 <http://www.hta.or.jp/about/sapporo/kyukei-map/>

### ターミナル機能を付加し、地域間移動や長距離移動の中継を担う

- ・名寄IC周辺においてはトラックドライバーが休憩する施設が極端に少ないことから、トラックドライバーが立寄る環境づくりが進んでいない。
- ・トラックドライバーの労働負担軽減、さらには道北の生産物の付加価値化を目指し、ワンストップを活かした産業への転換が重要である。

### ■名寄市及び道内縦貫に係る物流トリップの特性

《名寄市を通過する貨物車の立寄り地》



出典：開発局提供 ETC2.0データ 2021 10月

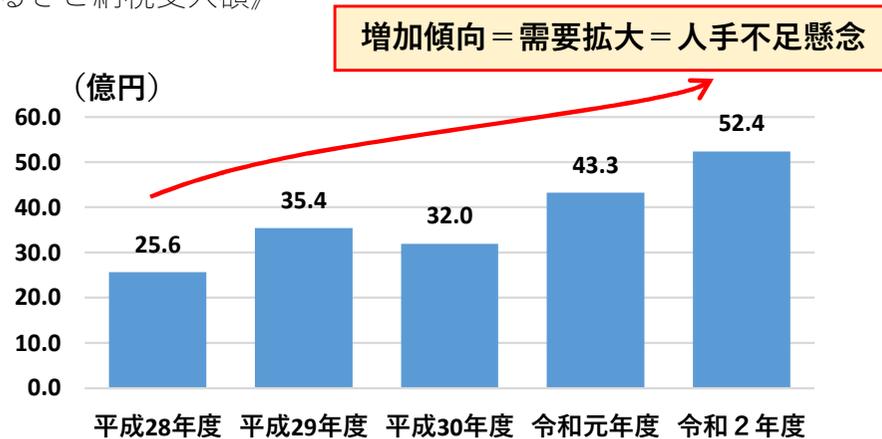
※トリップ数 車両エンジンのON OFFの経路

## 道北の加工業、倉庫業を担う基地整備

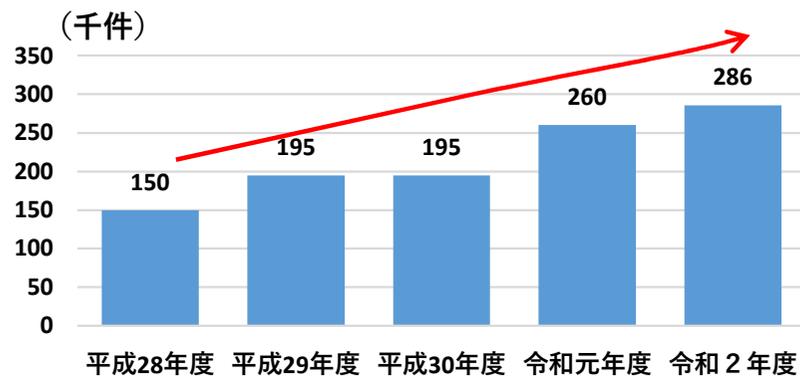
- ・ホテタ産業に関する人手不足、またふるさと納税の返礼品動向の需要拡大に伴う人手不足など、これからの産業は労働力や資源の共有化を図っていくことが地域発展にとって重要と言える。
- ・名寄市としても道北の地域産業の下支えとなる基地の整備が求められる。

### ■道北地域のふるさと納税の返礼品等の動向

《ふるさと納税受入額》



《ふるさと納税返礼品 取り扱い件数》



出典：総務省「令和3年度ふるさと納税に関する現地調査」

## 重要物流道路からダブル連結トラック輸送対応のターミナル拠点づくり

- ・名寄市を縦断する国道40号（高規格道路を含む）は、道内における重要物流道路を担うことから、導入指定が期待されるダブル連結トラックを将来的に担うことが期待される。
- ・拠点における対応としては、専用の駐車マスの整備が不可欠。

《道北の重要物流道路》



物流の更なる円滑化等を図るため、物流の観点から重要な道路を「重要物流道路」として国土交通大臣が指定し、機能強化を推進。2018年道路法改正により、重要物流道路制度を創設。

出典：国土交通省 重要物流道路等の指定

# 必要性を踏まえた拠点整備イメージ、導入機能・施設（案）

## 必要性1 高規格道路整備の効果を最大限享受するための地域振興・活性化のゲートウェイの形成

導入機能

観光等の産業発展の機運を享受する地域の活性化となる賑わいの機能  
国道40号のもち米の里☆なよろ道の駅のような、物販や飲食機能を有する賑わい施設に加え、公共性がありオープン利用できる広場を創出。道北観光の入口としてのインフォメーション機能を導入。

導入施設

賑わい施設（物販、飲食）  
観光インフォメーション  
広場施設（芝生広場と野外給食施設等）

## 必要性2 厳しい運送物流環境を改善し、地域の産業を届ける道北の物流拠点の整備

導入機能

トラックドライバーが休憩する機能  
道北トラックドライバーが安全な輸送を可能とするリフレッシュできる休憩機能を確保。道北トラックドライバー荷積みや集配の待ち時間に、一般道路に路上駐車してしまう問題を解決する十分な駐車スペースを確保。物流の2024年問題にも対応。

導入施設

温浴施設、仮眠可能な休憩スペース  
燃料補給設備  
物流倉庫施設  
大型車用駐車場

導入機能

中継機能、ダブル連結トラック輸送の拠点機能  
物流の2024年問題、更には高質な生産空間における物流支援として、トラクター方式や詰め替え方式に対応する等のドライバー1人あたりの走行距離を短縮する中継輸送、さらには将来的に導入指定されるダブル連結トラックの輸送基地となる駐車場等の実現に向けたターミナル機能を強化した物流拠点づくり。

導入施設

トラクターミナル施設  
〔連結ドック、トラクター交換、荷積み替えスペース〕  
〔ダブル連結トラック用の駐車マス〕

## 必要性3 労働力や資源の共有を図り、道北の水産物加工等の産業の下支えとなる基地の整備

導入機能

名寄市や道北の生産力の集約や向上に関する機能  
不足傾向にある生産力について名寄市を中心とした地域で確保し、道北の産業を下支える。インターチェンジの交通結節性を活かし、道北の産業と連携した物流関係の新産業に挑戦。

導入施設

道北の水産物のストックヤードと連携した加工施設  
道北のふるさと納税の集約ステーション

## 必要性4 市域の水災害における地域防災拠点、道北地域の広域防災拠点の整備

導入機能

広域防災機能及び地域防災機能  
名寄に陸上自衛隊駐屯地があることを踏まえ、インターチェンジの交通結節性を活かした道北圏域の広域防災機能を強化。  
名寄市域や豊栄地区の防災耐性向上となる機能を強化。

導入施設

防災基地施設（倉庫、避難施設）  
再生可能エネルギー活用施設、非常時の自家発電施設  
自衛隊、警察、テックフォース等の救援活動の拠点

期待される整備効果

従来の道の駅と比べ、トラックドライバーの立ち寄り利用や休憩に柔軟性が生まれる  
物流事業者のニーズに応える中継地の整備

道北を牽引する新しい産業にチャレンジできる  
加工業、ふるさと納税返礼品配送等

地域の水害耐性強化、市域の防災備蓄機能が強化される  
避難施設の確保、2,000人分の食料を配送

拠点整備により市域や道内へ経済波及効果が生じる

建設事業費投入による経済波及／「道の駅」的な拠点整備による売上アップの経済波及/運送業、加工業の売上げアップの経済波及

# 拠点整備のイメージ図

拠点整備  
テーマ

地域にもトラックドライバーにも頼もしい 新しい名寄のインターチェンジ拠点  
(道の駅のような賑わいの場 + 温浴できる憩いの場 + 産業振興の挑戦の場 + トラックターミナル)

## A. 道の駅的な賑わい施設 (物販、飲食)

道の駅のような物販機能を導入、名寄美深道路利用者にも利用しやすい直売所。



出典：名寄商工会議所 撮影

## B. 温浴施設

温浴施設と仮眠休憩ができる施設。トラックドライバーのみならず、地元や長距離一般ドライバーにも心強い。



出典：道の駅 阿寒丹頂の里 HP (北海道釧路市)

## C. 加工業・運送業の施設 (道北の水産物の加工施設、道北のふるさと納税の集約ステーション)

道北内で不足傾向にあるホタテ加工工場を就業人口の多い名寄市に建設するなど、加工業施設を配置。

インターチェンジの交通結節性を活かし、道北地域のふるさと納税の返納品の梱包や保管などを一括で集約ステーションを配置。



出典：猿払村漁業協同組合

## D. トラックターミナル機能

トラクター方式や詰め替え方式に対応して中継拠点スペース、ダブル連結トラックの駐車スペースを確保したターミナル機能を設置。



出典：国土交通省



## G. 駐車場 (トラック等、大型駐車場)

一般車用に加えてトラック等の大型車用の駐車場も十分確保。



出典：道の駅 はなぞの (埼玉県深谷市)

## E. 広場施設 (芝生広場と野外給食施設)

キャンピングカーなどの給食ヤード等として、デイッキング広場として持ち込みや直売所の料理場を設置、災害時にも利用可能。



出典：道の駅 あらい HP (新潟県妙高市)

## F. 防災基地施設

地域防災、広域防災拠点として倉庫、道の駅も防災施設として活用。有事の際は拠点内のスペースを活用。  
《防災倉庫》 《自衛隊活動拠点》



- ・自衛隊、警察、テックフォース等の救援活動の拠点
- ・緊急物資等の基地機能
- ・復旧、復興活動の拠点等

出典：国土交通省「道の駅」の防災機能強化について 資料

# 3 「名寄IC周辺 物流・防災拠点化構想（名寄市）」 検討状況

## ①物流中継拠点共同利用施設

道北圏域の魅力的な農畜水産物の流通を、ストレスなく道内拠点へつなぐことが可能になるとともに、増加傾向にある圏域のふるさと納税においても、返礼品の対応を現地では生産に専念し、名寄へ集約することで、発送業務の一元化により効率化を図ることができる。

整備については、民間による整備を検討いただけるよう国の制度による支援を含め働きかけを行う。

## ②広域防災拠点施設

日本最北の駐屯地の所在地として、道北圏域の広域を範囲とする防災拠点として位置づけ、高規格道路を中心にインフラ整備を行う

備蓄品を格納する倉庫や、有事の際のヘリポートなどを整備する

名寄市立総合病院の役割

平成9年：上川北部地域災害拠点病院指定

平成10年：地方センター病院指定（道北第三次保健医療福祉圏）

平成27年：救命救急センターに指定、ドクターカー運用開始

## ③道の駅的な機能や地場産品の販売施設

名寄市の直接整備やデベロッパーによる整備の検討を行う

## ④給油・充電施設

給油は名寄市内事業者による出店の検討

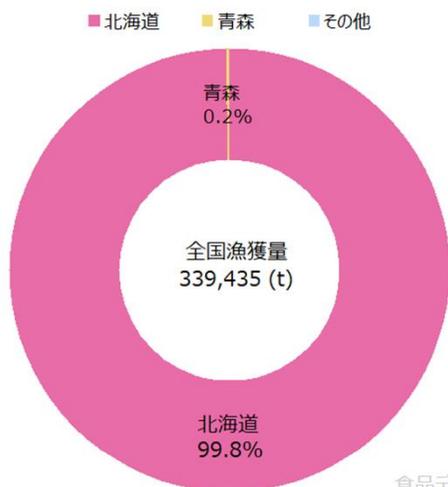
充電施設は名寄市等で整備を検討

# 【参考】名寄における道北海産物の加工や中継輸送の可能性

令和3年 北海道水産現勢 より

	オホーツク総合振興局		宗谷総合振興局		道北地域合計		北海道全体		道北地域占有率	
	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ほたて貝	198,200	36,584,971	140,604	28,334,911	338,804	64,919,882	443,079	91,406,636	76.47%	71.02%
さけ	25,608	22,102,482	9,820	7,506,782	35,428	29,609,264	53,651	45,638,635	66.03%	64.88%
みずだこ	1,795	1,482,080	3,052	1,852,874	4,847	3,334,954	12,964	8,369,702	37.39%	39.85%
すけとうだら	40,679	1,501,571	14,617	490,081	55,296	1,991,652	162,085	8,370,632	34.12%	23.79%
たらばがに	158	634,379	242	822,145	400	1,456,524	425	1,514,051	94.12%	96.20%
毛がに	129	617,570	841	4,008,741	970	4,626,311	1,336	6,710,621	72.60%	68.94%
海産物全体	298,008	67,521,984	191,075	53,025,180	489,083	120,547,164	1,176,879	258,610,770	41.56%	46.61%

ホタテガイ漁獲量の都道府県別シェア（2019年）



食品データ館  
食品データ館より

■北海道を代表する海産物でホタテ貝やカニなどはオホーツクや宗谷地方で多く取れるため、今後の流通に課題を抱えている

■北海道の玄関口は苫小牧港になっており、現状の輸送体制では、輸送困難になっていく

■道北の水産加工会社からの聞き取り

- ・今後、従業員の高齢化による人手不足、それに伴う加工能力の限界という課題を抱えており、地元の水産加工場で処理できないホタテは、原料ホタテとして宗谷管外に出荷せざるを得ない状況
- ・今後、名寄や旭川の間地点にコンテナヤードなどを作るのがよいのではないかと。
- ・内陸部での加工についても理にかなっていると思われる。

